

流山稲門会

【交譲葉】俳句の会 報告

令和七年九月句会（第一六〇回）
兼題 「秋刀魚」

開催日 令和七年九月二十七日

開催場所 流山市生涯学習センター

出席者 七名

投句者・選句者 七名

【三点句】

明晰の句友逝きたり法師蟬

玄鳥

【二点句】

初秋刀魚はじかみ添えて写メを撮る
境内の小径の清め竹の春
新しき実のまた一つ秋暑し
秋祭りジョッキ片手に赤子抱き
無花果の採る人もなく熟れるまま

互柳柳
花花
酬花
小牧

【一点句】

秋刀魚焼くアイエイチなれど美味かりき

口先の黄色を探す初秋刀魚
幾度なく恋こがれし秋の風
始業式子らに寄り添い赤とんぼ
セーヤセーヤ本棒肩に秋祭り
ブーム去り廃ホテル如何に震災忌
秋刀魚焼く七輪炭が今は無く
白茄子やとり前歯の拍子抜け

徹小互小互小
心牧酬牧酬牧
柳徹小互小互
花心牧酬牧酬

【五点句】

●肉厚のずっしり重き鶏頭花

夢心

「ニワトリの頭に冠あり」、真つ赤な鶏頭の威風堂々とした部分を作者は「ずっしり重き」と表現し、重たいだけでなく肉厚と修飾した見事な表現である。秋盛りの鶏頭花を良く観察しまとめあげた秀句である。ちなみに鶏のトサカの正式名称は肉瘤という。

選評 互酬

【四点句】

●小走りのスカートひらり涼新た

玄鳥

涼新たという季語は、残暑の続く日々のうちに初めて涼気を感じて秋の訪れを知ることとを言う。若い女性が小走りに急ぐとき、スカートが翻って白い脛でも見えたのだろうかその健やかな一連の動作の中に爽やかな秋の訪れを感じたというのである。取り合わせがユニークである。

選評 夢心

【四点句】

●焼かれても海の目してる秋刀魚かな

柳花

豊漁で売り場には立派な秋刀魚が並んでいます。刀のように細長くセガ青く腹が銀白色と形容されるなかで目に焦点を当てたのがよかったです。新鮮な秋刀魚は本当に目が澄んでいて海の青さを映し出しているかのようなようです。

選評 小牧

【投句】

挨拶をかはす良き日や秋刀魚焼く
身を解す秋刀魚の苦み口に入る
豊漁の秋刀魚クレーンで吊られけり
さんま漁豊漁と聞き安堵せり
秋団扇今も傍ら活躍す
鏡割り新酒を升で供しけり
いやならばでてけといふか今日の月
秋刀魚喰い季節の到来確認す
見上げれば稲か場に父の姿かな
野分来て一斉下校子等の列
白絵の具塗れども足りぬ富士の秋

玄柳夢夢夢夢夢
鳥寛心寛心寛心
夢心夢心夢心
夢心夢心夢心
夢心夢心夢心

『句会後記』

今句会の投句受付、選句一覧は世話人青木氏のPC故障に付き菅原氏が行った。グラフィカルで判り易い選句一覧に沿って作句者の言と選句者の選句理由が述べられ会員一同の活発な意見交換が行われた。季語兼題は「秋刀魚」であったが、会員それぞれ秋刀魚に関する知識、思い出等は異なること乍ら現在の日本国において、未だ秋刀魚は一つの秋の象徴として価値ある魚であると筆者は改めて思った次第です。

悠閑亭徹心（宮内）

